

序 文

中央水産研究所は、調査研究を通して、水産物の安定供給の確保や水産業の健全な発展へ貢献することを目指している国立研究開発法人水産総合研究センター（本年度から独立行政法人から名称変更）傘下の研究所の一つです。

四方を海で囲まれた日本の水産研究は重要であり、その共通基盤的研究を担う組織として、中央水産研究所は、経営経済、水産資源管理、海洋・生態系、水産物応用開発（利用加工）、水産遺伝子解析の分野の研究を推進し、東日本大震災の復興に向けた研究等も行っております。

研究の成果は、論文、報告書、学会やシンポジウムなどを通して公表するのが普通ですが、成果の内容が、なかなか一般の方々には届き難いのが事実です。

そこで、専門でない方々にも、我々の研究成果を広く知っていただくことを目的として中央水産研究所の研究成果を解りやすく解説したのが、この「研究のうごき」です。平成15年度に発刊し、今号は第13号になります。

研究開発の背景と目的、得られた成果及びその波及効果を、それぞれ1ページにとりまとめ、冊子として編集した成果集です。

水産総合研究センターは、運営費交付金を始めとする公的な資金に大きく依存していますので、一般の方々に、研究成果を理解していただき、ご意見をいただくことはとても重要なことだと考えています。「研究のうごき」を読まれて、何か感想や疑問を持たれた方は、是非お知らせいただきたいと思えます。

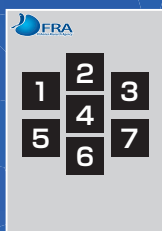
また、研究成果に興味を持たれたら、ぜひ、当所のホームページ（<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>）に掲載されているバックナンバー等も、ご覧ください。

さらに、中央水産研究所では一般公開（平成27年は10月18日（日））や、サイエンスステージ（平成27年は10月3日（土）に横浜八景島で）などのイベントも毎年開催しますので、このような場にもお越しいただき、所員と直接意見交換していただけると、さらなる水産研究の進展ひいては、日本の水産業の発展にもつながっていくことが期待され、大変ありがたく思います。



平成27年9月

国立研究開発法人 水産総合研究センター
中央水産研究所 所長 中山 一郎



表紙写真(提供)：1. タチウオ耳石 (巨 真吾)；2. サンマ仔魚の採集 (高須賀明典)；3. クロマグロ仔魚 (増島雅親)；4. ライン組込型脂肪測定装置 (木宮 隆)；5. Gambieroxideの化学構造 (渡邊龍一)；6・7. カキの垂下養殖・グリコーゲンの蓄積の有無によるカキの違い (馬久地みゆき)